

図書館報

発行所
愛媛県西条市丹原町
丹原高等学校
図書委員会

読書でトクしょ！

校長 菊池 博喜



小学生まで遊べば、学校の図書室で江戸川乱歩の推理小説などを好んで読んでいた記憶があります。しかし、中学生になると、部活動に明け暮れる毎日、途端に本を読むなくなりまして。高校でも、図書室からは足が遠のいていたように思います。今思うと、少しもつたないかと思えてなりません。多感な時期に、いい本との出会いを、みすみす逃していたのではな

いかと思います。こんな私が薦めるのも何ですが、発想力や創造力につながるような私なりの三冊を紹介してみます。先行き不透明な時代をたくましく生き抜くためにも、是非手に取ってみてほしいと思っています。

まずは、赤瀬川原平著『運命の遺伝子UNA』です。遺伝子はDNAですが、UNAって何？これが、この本を手にした動機でした。運の良い悪いには、まだ発見されていない「運NA」が関係しているのではないかと。日常に起こる単なる偶然では片付けられない事象について、著者独自の解釈が述べられていきます。発想力を磨きたい人は、併せて『路上観察学』なども手にしてみるといいかもしれ

れません。

次に、物事の本質を見抜く力を鍛えたい人にお薦めしたいのが、南伸坊著『モンガイカンの美術館』です。一世を風靡した漫画雑誌『ガロ』の編集長でイラストレーターでもある著者が、門外漢の立場から芸術をこき下ろします。冗談と哲学が入り乱れる不思議さがあり、既存の価値観をいい意味で崩してくれる名著です。

三冊目は、NHK教育番組「ピタゴラスイッチ」で知られる佐藤雅彦氏による考察集『考えの整頓』です。発想から表現に結び付ける過程を、分かりやすい言葉で説明してくれています。うまい立ち振る舞いや言い方だけを覚え、一見、成功して見える人たちに警鐘を鳴らしているように思えます。巧みに溺れず、本質を考える上での根源的な思考力を目指す人に、ヒントを与えてくれる本だと思います。

思います。

平易でユーモラスな本を選んだつもりです。ただ、中高生時代の私と同じで、「時間がない」「お金がない」といったことを理由にして、読書から遠ざかっている人もいないではないでしょうか。そこで、私流の読書ライフを少し紹介してみます。私は、図書館で一度に五冊くらい借り、生活の中でさっと手にできる場所に本を配置しています。当然、枕元にも一冊置いてあります。全部読めなくても気にしません。五冊のうち二冊読めたとしたら、年間三十冊くらいになる算段です。

私の経験から言うと、読書量が増えたと、興味・関心事が増えます。これから出会うであろう様々な人々と話をすると、きつと楽しい時間を作れます。人生が豊かになることで得をすると思うのです。

どうですか。読書の楽しさを知らないなんて、もったいないと思いますよ。

私の読書体験

新任の先生方より原稿を寄せていただきました。

「聞く力」人生、楽！な生き方をするために

教頭 大川 正和

「インスピレーション」(Inspiration)とは、「創作、思考において、瞬間的に浮かぶ考え。新たな飛躍的活動をうながすひらめき。」のことである。本を選ぶとき、私は「インスピレーション」といえば聞こえはいいが、「直感」で選ぶことが多い。その時の気分、興味、志向、趣味、立場などいろいろな要因がある。ふと、自分について考えるときがある。そのときに、「自己啓発本」を手にする。

	「自己啓発本」とは、「自分の能力を大きく伸ばしたい」「価値観や考え方を広げたい」「何をするにもやる気が起らない」とき、自分の能力や心を成長させてくれるものである。 話は戻るが、「私に何が足りないのか。」とか「幸せに生きるためにはどうすればいいのか。」と考えたことがある。その答えが「人の話を聞くこと。アドバイスを受け入れること。」であった。タイトルのインスピレーションで選んだ本が、阿川佐和子さんの『聞く力 心をひらく35のヒント』と『叱られる力 聞く力2』だ。「聞く」ことも「叱る」ことも、人と人のつながり、コミュニケーションである。これを読んで、心が楽になった。人を頼ることも大切ですね。
	『落窪物語・堤中納言物語』 国語科 村上 雄祐 皆さんは、古文が好きでしょうか。現代語訳ができないとか、文法がわからないとかそういうことではなく、物語としてです。 今回、私は『落窪物語』という作品を紹介したいと思います。『落窪物語』は、「継子いじめ譚」として知られています。継子いじめとは、血のつながりのない母（継母）が、血のつながりのない夫の子ども（継子）を冷遇・虐待することです。『落窪物語』の主人公・落窪の君も、生みの母親をすでに亡くし、継母に冷遇されていました。しかも、他の家族も助けてはくれませんでした。 しかし、この作品の面白さは、そんな落窪の君が最終的には幸せになるというシンデレラストoryであることです。落窪の君を愛した道頼による救出劇や継
	母一行への復讐劇は、心の晴れる展開であり、面白いと思います。 古典文学の面白さは、現代にも通じると私は考えます。新編古典文学全集には、『落窪物語』以外にも多くの作品が収録されており、原文以外にも、現代語訳や解説等が書かれています。新編古典文学全集以外にも、古文を現代文に直して書かれた作品はあると思います。そのような作品を一度読んでみてください。面白いと思うかもしれませんよ。 『ナダル・ノート』 〜すべては訓練次第〜 地歴・公民科 尾崎 裕 タイトルを見て、坊主の芸人がみなさんの頭に思い浮かぶようなら『水曜日のダウンタウン』あたりを見すぎです。『ナダル』と聞いて頭をよぎるのは普通、無敵のクレイコート王者、グランドスラム通
	算第二十二回優勝（2023年2月時点史上最多）の偉大なプロテニスプレーヤー、ラファエル・ナダル：であってほしいところです。 私は軟式・硬式問わずテニスが好きなので、「ナダルの本だ!!」と思ってこの本をタイトルだけ見て購入しました。すると、コロチキのナダルでもなく、グランドスラムのナダルでもなく、トニィナダルというナダルの叔父さんが監修した本でした。 恥ずかしながらも、人生で2度詐欺にあったことがあるため「今度はタイトル詐欺にあったのか!」と、一瞬間をよぎりましたが、このナダルの叔父さんが書いた本が想定以上に素晴らしく、むしろ本人が書いた本より興味深いのではないかと?という出来でした。トニィナダルがチャンピオンを育てる過程で交わした言葉の数々：そ
	れらは哲学的で、教育的で、まるで私たちに対する人生の指南書のように感じました。 スポーツで伸び悩んでいる人、人生で悩んでいる人：そんな人は本書『ナダル・ノート』を読んでみてはいかがでしょうか。 最後に本書の一節を紹介して、稚拙な文章の締めとさせていただきます。 「ラファエルよ、顔は心の鏡なんだ。夢がある人は決して憂鬱な表情を見せないものだぞ」 在学も卒業生もこれからそれぞれの夢を追うことかと思えます。やりたいことやっているのに憂鬱な顔を見せるなよ!がんばれ!

『最強脳』 英語科 高橋 智太郎 なんとなく体がだるい。なんとなく頭が働かない。なんとなく人生がうまくいかない。このように感じる人は意外にもいるのではないだろうか。この『最強脳』を読めばそれらは全て解決されると言っても過言ではない。 朝起きてスマホでインスタをチェックし、昼休みにも新たな投稿がないか画面をスクロールする。学校から帰り、食事を済ませお風呂から出る。宿題はやる気にならないが、携帯をいじる。気づけば12時を過ぎて、一日のスクリーンタイムは数時間以上になっている。 またクリスマスやお正月にはおいしい料理を腹いっぱい食べ、顔が丸くなって新年初顔合わせをしている人もいます。 このように自分を自分の思うようにコントロールできない		い理由がこの『最強脳』には書かれている。ある行動をするだけで集中力、記憶力、発想力、ストレス耐性、充実感、様々な能力を上げることができる。私はこの本を読んだ後から、「ある行動」を継続している。毎日を充実感をもって生活している。あなたたちもぜひ高校三年間を最高のものにしてもらいたい。 *『スマホ脳』もおすすめ！ 『十角館の殺人』 (綾辻 行人 著) 農業科 大野 光輝 1 内容 とある島を訪れた七人のミステリー研究会メンバー。この島の青屋敷と言われる場所、かつて殺人事件が起こったという、いわくありな場所での合宿に心躍らせる七人。しかし、十角館で彼ら待ち受けたのが、第一から第五までの「被害者」と書かれたプレートと、「殺人犯	
人」、「探偵」と書かれたプレート。そのプレート通り、一人、また一人と仲間が殺されていく。そして殺された仲間の部屋には「被害者」のプレートが貼られている。犯人は仲間のうちにいるのか。また、本土に残っていたミステリー研究会のメンバーには死者からの手紙が届き、島の中と本土の両方でそれぞれ犯人を捜し出していくというミステリー小説です。 2 感想 著者、綾辻行人さんは複数の館シリーズを出されています。その中でも、本作がデビュー作で、物語が終盤にくにつれてどんどん面白くなっていく本格派ミステリーです。犯人を想像しながら読み進める中で、ある一行の文に衝撃を受けた作品です。みなさんもぜひ読んでみてください。 		『植物図鑑』 農業科 佐伯 憲士郎 おすすめする本は、有川浩さんの『植物図鑑』です。この作品は映画で放送され、私は本を読んだから見に行きました。恋愛ストーリーだとは思っていましたが実際は、植物を通して主人公の考え、周りの人たちとの関わりが変わっていく内容です。 農業を教えるようになって改めて「雑草という名の草はない。すべての草には名前がある」という言葉に感銘を受けました。今まで、生えている草はただの草だと思っていたのですが、この言葉を聞くとまだまだ知らないことが多いんだなと感じました。高校生の時、朝読書で読んでいた本で改めて読み返してみると新たな発見ができたような気がします。この本では、野草や花など聞いたことのないものも多く、調理方法なども紹介しています。	
		す。まだまだ、知らないことばかりの私ですが、この本で野草や花のことを知れたと思います。 最後になりましたが、内容を伝えるのが下手でみなさんに伝わったか自信はないのですが、一回読んでみてください。新たな発見があると思います。他にも有川浩さんのおすすめの作品はたくさんあります。あまり読書をしてないので、この機会に、久しぶりに本を読んでみたいと思います。 『秘密』 (東野圭吾 著) 事務課 山本 喬之 昔から読書が好きで、特に東野圭吾さんの本は多く読みました。物語の中に多くの伏線が張られており、最後に全てがつながる展開が魅力的で、いつも衝撃を受けていました。また、個性豊かな登場人物たちに心が躍り、その考え方や生き様に感銘を受	

けることも多かったです。 その中で特に感銘を受けたのが『秘密』という一冊です。過去にドラマ化もされており、内容を知っている方も多いかもしれません。死んだはずの妻が娘の体の中に乗り移って生まれ変わり、夫と再び秘密の人生を歩んでいくストーリー。よくある「意識の入れ替わり」の設定ではありますが、その過程にある悩みや葛藤、愛情などの心理描写が自分自身に刺さります。ラストの結末も人によっては色んな解釈ができると思いますが、それもこの本の魅力だと考えています。 大人になると本を読む機会は少し減ってしまうかもしれませんが、しかし、久しぶりに同じ本を読んでもみると、別の解釈や考え方をすることが出来ます。ぜひ忙しい時にこそ本を読み、自分を見つめて直してみてください。	『犬と私の10の約束』 事務課 松木 奈央 私は小学生の時に母に買ってもらった大切にしている本がある。 『犬と私の10の約束』という本だ。犬が好きなのと、当時映画化されて話題になっていたので買ってもらった本だ。短編詩の「犬の十戒」が題材になっていて、母親を亡くした主人公あかりと犬のソックスが共に成長していく姿を描いた物語である。この本に出てくる10の約束は、犬から飼い主に向けた願いが込められている。私は小学生の頃、ただ可愛いという理由で犬を飼いたいと思っていた時があった。しかしこの本を読んで、犬にも感情がある事、飼うには時間的にも経済的にも大変さがある事、最後まで責任を持つて育てる事の大切さを学ぶことが出来た。犬の一生は人間にとつての約10年。犬は飼い主が
人生のすべてだからこそ、愛情を持つて育てていかなければならない。そんな命の尊さを学ぶことが出来る作品だ。犬に限らず、今動物を飼っている人、これから動物を飼う予定の人にぜひ読んでもらいたい。 高校時代に感動した本 指導員 石飛 敦美 高校生の頃、推理小説ばかり読んでいた私が「高校時代に読んで感動した本」といえる数少ない本の中から、皆さんに紹介したいのは、『O・ヘンリー短編集』の『賢者の贈り物』というお話です。 ある貧しい夫婦がクリスマスにプレゼントをするお話です。妻は、自慢の髪の毛を売って夫が大切にしている懐中時計のチェーンを買い、夫は、その懐中時計を売って、妻の長く美しい髪を梳く櫛と髪飾りを買ったのです。 二人は、お互いのことを想	う余り、自分の一番大切なものを売ってしまいました。 素敵なお話だと思いませんか？私達も誰かにプレゼントを贈るとき、喜んでくれる顔を思い浮かべながら選びますよね。これは、言葉によるコミュニケーションも同じような気がします。 昨今のコミュニケーションは、つつい便利ナテキストデータで伝えることが多くなりましたが、大切なことは、心の通い合う言葉で伝えたいものです。そんな対話の中でこそ、お互いを思いやる感情が伝わるように思います。 とても短いお話なので、すき間時間にでも読んでみて下さいね。
読みきかせ劇場 養護 栗田 紀子 大学生の頃、小児科看護実習の中で、私たち看護学生は子どもたちのお楽しみ会を開き、何冊かの本を読みました。闘病中の子の中には、読書をする体力のない子もいて、差し入れされた本が手つかずだったり、テレビ以外の娯楽がない子もいたりしたからです。会を開くにあたり、私たちは、より楽しい読みきかせになるよう作戦を考えました。そして登場人物の声色を全部そのキャラクターに合わせて変える、自称「読みきかせ劇場」に挑戦することにしました。 看護師長や病棟看護師さん達のご協力をいただき、当日は何人もの子が集まってくれました。自力で本が読めない子も、看護師さんと一緒に来ていました。 私たちは緊張して、お母さんの台詞をお父さんの声で言	



ってしまい、笑いの渦となりました。でも、かえって子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらえたようで、嬉しかったです。

子ども達の重症度は様々だけれど、読書を楽しみたい気持ちには健康な子と変わらないことをお楽しみ会を通して感じました。

私は、今後も時間ができたら、地域のボランティアとして読みかせをしたいと思っています。もちろん「読みかせ劇場」で。

読書感想文優秀作品

音

二年三組 高野 清楓

似ている。この本を読んでいる途中、漠然とそう思った。私と主人公の宮路は、どこか似ている気がする。面倒くさがる姿勢が。夢をみているところが。夢を諦めきれないくせに、その夢に向かって懸命に努力しようとしないうところが。最初、私は深く宮路に共感し、同時に嫌悪した。しかし、読んでいくうちにその気持ちは大きく変化した。

この物語の鍵となるのは、「音」だ。物語も宮路も、音をきっかけに進んでいく。宮路の演奏の歌。渡部君のサックスの歌。入居者の賑やかな話し声や、曲にのせて歌う声。本庄さんのウクレレの歌。この本にとって音はとても大切な。一つ一つに意味が

ある。そして一つ一つが宮路の人生を形成する大事な役割を果たしている。当たり前なことだが、この本からは音は聞こえてこない。賑やかな音、静かな音、どんな音でも自分で想像するしかない。しかしこの本を読んでいると、不思議とたくさん音が聞こえてくるような気がした。

最初に施設で演奏した頃の宮路の演奏は、「俺の演奏を聞け。すごいだろ。上手いだろ。」というような、自己中心的で聴いている人のことを少しも考えていないような演奏だった。しかし、施設にいる人により良い生活を送ってもらうために、いつも考えて仕事をする渡部君や、認知症が進み、一緒に練習したこともウクレレを教えたくれた宮路のことも分からなくなってしまう本庄さん、宮路のことをボンクラと呼び、強く当たりながらも実は本当の子供のように大切に

に思っている、ばあちゃんこと水木さんたちと関わることで宮路の考え方も少しずつ変わっていったのだと思う。

どんなに大切に思っても、時間をかけて接しても、その人は亡くなってしまったり忘れてしまったりする。そんな事態に直面すればだれでもショックを受けるだろう。宮路もそうだった。渡部君だって同じだ。しかし、それではなく、見返りを求めず、今、目の前にいる人のことを大切に思っ、その人との関わりをもっと大切にしようと思うようになったのではないか。宮路の演奏も、「聞いている人を思って、聞いている人のための演奏」になったのだろう。私は、宮路の演奏をととても聞きたいと思った。昔の宮路の演奏なら足を止めて聞こうと思わなかっただろう。しかし、今の宮路の

演奏は、とても魅力的で、心から聞いてみたいと思った。きっと、その音は、周りを包み込むような柔らかな暖かい音だろう。そして私も宮路のように、自分のことだけでなく、今、目の前にいる人のことを思っ、行動できるようになりたいと思った。

この物語で伝えたかったことは、どのようなことだろう。それは、人との関わり大切さ、人のことを思うことの大切さだと思う。メインになる場所は老人ホーム。ここにいる人たちは、人生の終わりが近い人たちだ。いくら嫌でも、いくら拒んでも、体は衰え、そして死は近づいてくるものだ。その事実と向き合い抱えきれないほどの恐怖を抱きながらも、最後の最後まで人生を楽しめるようにしようと、ホームの入居者は今この瞬間を楽しんでいた。そうできたのは、相手のことを思い、関わってくれる人たちがいたから

(6) 2023年2月24日

だ。宮路も、水木さんや本庄さんと関わるうちに、自分のことだけを考えるのではなく、ちゃんと相手のことを考えられる人にならなりたいと思った。

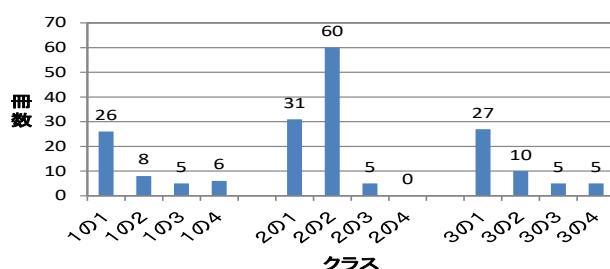
誰かのために行動する。言うのは簡単だが、やるのはとても難しい。人を使うことは簡単にできることではない。その人に真摯に向き合い、考える。何が正解かわからないし、どうしたらいいのかわからず行き詰まることもあるだろう。それでも諦めず、向き合っていくのは大変なことだと思う。しかし、自分のためばかりを思って動いているようでは絶対にダメだ。自分のためだけに動くのではなく、みんなのために。私は先日、生徒会役員に立候補した。前からしようと思っていたが、この物語を読んで、人のために動きたいという気持ちがより強くなった。自分も誰かの

役に立ちたい。宮路のようにはなれなくても、自分なりの人と向き合うことはできる。みんなが楽しい、居心地がいいと思える学校を作りたいと思った。

時間は有限で皆に平等だ。その中で自分の人生をより色濃いものにするためには行動するしかない。今この瞬間、一秒一秒を大切に後悔しない人生にしていきたい。そして宮路のように、自分だけでなく周りの人も一緒に幸せになれるような、豊かな人生を歩んでいきたい。

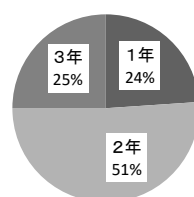


クラス別貸出冊数



学年別貸出総数

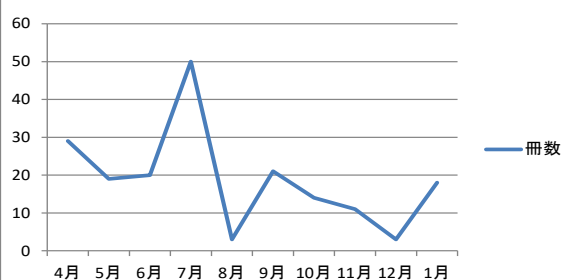
貸出総数188冊



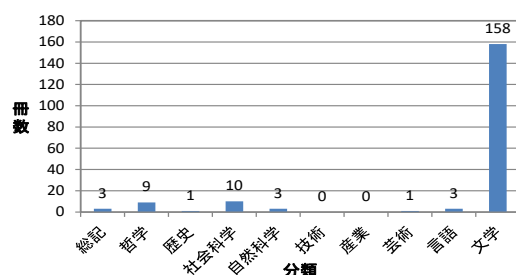
2023年1月末現在

図書館利用状況

月別貸出冊数



分類別貸出冊数



図書館報発刊に寄せて

今年度も、図書館報を発刊することができました。

昨年度は、先輩方の頑張りで、自分たちは訳も分からずにやっていただけでした。しかし、今回、実際にやってみると、期限に間に合うか大変不安でした。

原稿の協力をしてくださった先生方、ご協力ありがとうございました。

先生方の読書体験の原稿を、打ち込むに当たって読ませていただきました。とても印象深く、ぜひ、皆さんにも読んでほしいと思いました。三年生の先輩方が来られなくなり、図書室の雰囲気も少し寂しくなりました。図書室には、映画やドラマ、アニメの原作や、面白い本がたくさんあります。ぜひ、本を読みに図書室に足を運んでみませんか？

(図書委員会)